

ときめき インタビュー



栗 有希
しずく あき/Aki Shizuku

…プロフィール…

昭和61年10月31日、神奈川県川崎市生まれ。越谷市在住。上智短期大学および慶應義塾大学卒業。大学時代にレスリングをはじめ、4年生のときに全日本学生レスリング選手権大会67キロ級で銀メダルを獲得後、女子プロレスラーとして本格デビュー。現在はプロレス団体「マーベラス」所属。平成24年に僧侶の資格を取得し、親が住職を務める寺で僧侶として活動するほか、慈善事業団体「きらきら太陽プロジェクト」を主宰し、恵まれない子どもたちへの支援を行っている。



僧侶姿の栗さん。プロレスの衣装を縫ってくれる檀家さんもいるそう

ある時は縦横無尽にリングを駆け巡り、技を決める女子プロレスラー。ある時は仏様の前で念仏を唱える僧侶。そしてさらには慈善事業団体の主宰者という顔も持つ「尼僧プロレスラー」栗有希さん。その多彩な活動に込められた思いを伺いました。

★女子プロレスとの出会いは偶然観たテレビ中継

栗さんが女子プロレスに出会ったのは中学生の時。たまたまつけたテレビで放送していた試合中継を見たことからでした。

「コスチュームの華やかさ、お客さんを湧かせる技や駆け引き。見ているうちにどんどん女子プロレスの楽しさにのめり込んでいきました。中学・高校時代の私は引っこ込み思案な性格で、学校の友人関係にも悩んでいました。だからこそ観客を楽しませる華やかな世界を見ることが、落ち込みがちな気持ちに晴れたし、すごく勇気を

もらいました。」

テレビだけでなく試合会場にも足を運ぶほどのプロレスファンになっていった栗さんは、次第に「プロレスラーになりたい！」という夢を持つようになります。

「高校卒業が近づいたある日、母にその夢を伝えたら、母は「いきなりプロではなく、アマチュアレスリングを極めてからプロに行きなさい」と言っただけです。後で知ったのですが、実は母はプロレスをやらせたくなくて、レスリングというキツイスポーツをやったら諦めるだろうと思ってそう言ったらしいんですよ。そんなお母さんの願いとは裏腹に、栗さん

は厳しい練習を乗り越えて、大学最後の年に全日本学生レスリング選手権大会67キロ級で銀メダルを獲得するという結果を残し、女子プロレスラーへの道を歩み出します。

★試合のオフアワーがなくレスラー生命危機を経験

栗さんの最初の女子プロレスデビューは大学在学中の20歳のとき。しかし、所属したプロレス団体の上下関係の厳しさに耐えきれず、1年も経たないうちに退団。その後は学生レスリングと学生プロレスに情熱を燃やし、大学卒業を機に団体に所属しないフリーのプロレスラーとして再デビューされたそうです。

「フリーのプロレスラーは、いろいろな団体から声を掛けてもらって試合に参加するスタイル。で

すから1カ月に何試合もする忙しいときもあれば、1試合もないというときもある。一時期、試合のオフアワーが全く途絶えてしまった時は、レスラー生命の危機を感じましたね。」

「コンスタントに試合をするために団体に所属することを真剣に考えはじめたとき、女子プロレス界のカリスマ・長与千種さんが率いる団体「マーベラス」から誘いを受け、昨年入団を果たしました。

「長与さんのプロレスに対する想いの強さは本当にスゴイ。すばらしい先輩がいる団体に入れたのは光栄です。」

★突然やってきた「寺を継ぐ運命」

そしてもうひとつの栗さんの顔は「僧侶」。親の実家であるお寺は元々親戚が継いでいましたが、その方に子どもがなくて、栗さんの親御さんが住職を引き継ぐことになった。栗さんが18歳のとき。

「突然だったし、仏教のことも知らないし、すごく反発しました。でも好きでもないお坊さんと結婚

して継がされるくらいなら自分が僧侶になるほうがいいと思って、僧侶の資格を取ったんです」という栗さんは、現在レスラーとしての活動を優先しつつも、檀家さんを集めて月1回行う「念仏会」や法要など、僧侶の務めにも力を注いでいます。

★二足のわらじが生んだチャリティー活動

栗さんは平成25年から「きらきら太陽プロジェクト」という恵まれない子どもたちへの支援を行う慈善事業団体を主宰しています。

「このプロジェクトを作るきっかけになったのは、22年にお寺で開催した『縁日プロレス』。近年若い人がお寺離れしていることもあって、お寺で毎年開く縁日が寂しいものになっていたので、人集めとして境内でプロレスをやらうと。その縁日に募金箱を設置してうちのお寺と関わりのある寺の乳児院に寄付しました。それ以来、

8月開催の縁日プロレスの詳細は、「きらきら太陽プロジェクト」のホームページ (<http://kira-pro.com/>) で確認できます。



「プロレスより先に会っていたらタカラジェンヌだったかも」というほどの宝塚歌劇ファン

★他者を受け入れること

静と動という対極にも思える僧侶とプロレスラー。そこには共通点があると栗さんは言います。

「僧侶は人の悩みや苦しみを受け止めて導くのが役割。プロレスは相手の技を受け止める中で勝機を見出すスポーツ。他者を受け入れる」という姿勢は同じなので、私の中では2つの仕事に違いは感じません。」

今年の8月にも越谷市内で「縁日プロレス」が開催される予定。縁日には毎回500人くらいの人を訪れるそうです。

「縁日だけでなくプロレスの興行をする会場はどこでも、子どもが泣いたり騒いだりしても全然かまわない場所なので、プロレスを



迫力のある試合が繰り広げられる

プロレスと仏教をこれからももっと究めていきたい!



尼僧プロレスラー

栗 有希 さん

栗有希というリングネームには「誰かを救う一滴の粟でありたい」「未来に希望が有るように」の意味が込められている